

『沈黙行』

インターネットは、決して主人公にならない。
人は考え、人が動き、
その足跡として発信すべき何かが生まれる。

インターネットはあくまで
人生の小道具なのだ。

PIPED BITS

「ルイ・パスツール」 アルバート・エーデルフェルト

『人生の節目、運命の時間』

3月1日、来春に卒業する大学生の就職活動が本格的にスタートした。大学生は学業を優先するべき、という政府要請に対応し、昨年よりも就活期間が3カ月繰下げられている。企業は3月から募集要項を告知、4月から説明会、5月から学生の応募手続き、選考を経て、8月頃から内々定が開始されるといったスケジュールだ。3月からの半年間で翌春からの人生を決めることになる。

今回の就活期間の繰下げについて、事前にはネガティブな反応が目立っていた。日経HR社の調査によると、7割以上の学生が就活期間の繰下げに反対しているようだ。また、マイナビ社の調査によると、半数以上の学生が就活期間の繰下げは自分に不利になると考えているようだ。就活期間の短縮によって学生との接点が減り、必要な人員を確保できないかもしれないと危機感を募らせる採用担当者の声も聞こえてくる。

3月4日、出張で札幌を訪れたときのこと。チェックインしたホテルのテレビには、終わつたばかりと思われる公立高校入試の学力テストの解説番組が流れていた。札幌の難関校は南北西東の4校で、今年は札幌東と札幌西に受験生が集中し、競争率が1・5倍にまで上昇したそう。

競争率が1・5倍ということは、希望の高校に進学できるのは3人に2人。定員は320人だから、1校あたり160名もの生徒が希望の高校に進学できないことになる。4日の学力テスト、翌5日の面接を経て、合格発表は17日。4月からの生活はこの2週間足らずの期間で決まる。ハラハラドキドキの一発勝負、受験生にとって運命の時間だ。

このように、高校入試では皆わずか2週間で翌月からの運命を決めてきた。大学入試も長く2カ月程度だろう。ところが、大学に進学して勉学に勤しむと、何故だか、就活期間の開始が遅いとか短いという話になる。昨年11月に発表された厚生労働省の調査によると、4年前に卒業した新卒の入社後3年以内の離職率は、高卒は39・6%、大卒は32・5%で、離職率は上昇傾向にあるようだ。大学に4年も通い、1年以上前から就活したところで、大差はない。

来月、高校に入学する生徒の皆さんは、多くの新たな友達と出会うことになる。中には親友になる友達がいるかもしれない。甘酸っぱい恋もするだろう。生涯忘れられない思い出。受験のご褒美だ。希望した学校だったかどうかなんて、もはや関係ない。人生の節目。新たな縁に感謝しながら生きていきたいと思う。



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。後パイブドビット社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など10,096の事業者向けに情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイブドビット
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>